

いい茶葉に
そだったね

Love &
Harmony

森の中の茶畑から

こんにちは。葉っぴい向島園園主 向島和詞です。

いつも、当園のお茶をご愛飲して頂き、ありがとうございます。

平成 24 年は、観測史上最高の残暑があり 9 月も毎日暑い日が続きました。

夏は雨がなく、お茶にとってはとてもものが渇く年となりました。

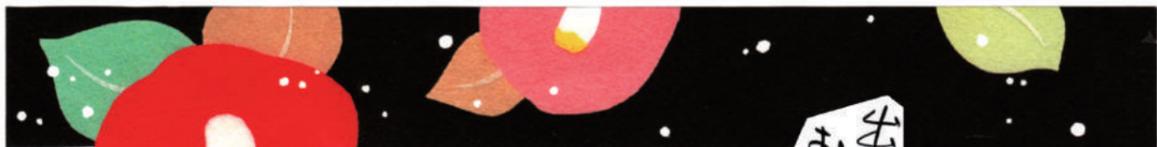
雨が降らないので気温も高く、畑で暑さにやられ、人間もぐったりでした。

秋がない年と長期予報で予測されていたように、九月の残暑による異常な暑さから、
いきなり朝晩冷え込むようになり、吹き付ける風もいきなり冬の風です。本当に体に堪えました。

今回は、「森の中の茶畑から」のメッセージを、NPO 法人 JOY ヒーリングの会
理事長 中西研二氏との対談でお伝えさせていただきます。

僕が目指す農業や、ワークショップの様子など堪能して頂けましたら幸いです。

2012/9

年末年始の船



晩秋の候。

11月に入り、冷え込んできてまいりました。
皆様、如何お過ごしでしょうか。
日頃より、当園とご愛顧頂き感謝申し上げます。

先日、ジグジグした強い太陽の下、雨も無く
天と大地がぽかぽか

「いつになったら、夏は終わるんだだろう」と感じていました。
お彼岸の時期に、彼岸花(曼珠沙華・天竺の花)が咲き
季節は大きく崩れてはいよいよと急ぐまいりました。

2012年、いよいよ今年も1ヶ月余り。

全てのシステムが「リセット・リセット」の時。
この通らなければならぬ「通過点」と心静かに願う中、
大切に作り上げてきた、一杯のお茶が、
心の平穏に注がれ、全ての上に生きること祈りながら
一年の感謝と共に、

今年も年末、年始のご案内とさせていただきます。

2012 冬 合掌



お米など出荷
お一人お一人の心に
届くお茶を
このお茶を
いただきます





手書きのチラシが好評!

古代品種で製造された新製品の「縄文の茶」と「SAKURA」

中西研二(なかにしけんじ)●1948年東京生まれ。NPO法人「JOYヒーリングの会」理事長。有限会社いやしの村東京代表取締役、ヒーラー。ワンネストレーナー。新聞記者、セールスマンなどさまざまな職業を遍歴の後、1993年に夢の中でヒーリングを伝授され、以来18年間で20万人を超える人々を癒し続けている。また、2004年9月にワンネスユニバーシティでワンネスディクシャという手法を学び、以来、この手法を通して、多くの人がワンネスの体験を得る手助けをしている。著書に「そのまんまでオッケー!」「悟りってなあに?」「あなたはわたしはあなた」(共にVOICE刊)がある。

向島和詞氏

Mukojima Kazuto × Nakanishi Kenji

中西研二

畑と対話できる関係に…

「生命の味わいがする深い一杯」と真剣に向き合う

いやしの村でもフアンの多い向島園のお茶。その若き二代目園主、向島和詞さんにお話をうかがいました。原発事故は、一年がたった今も茶業だけでなく日本の農業全体に深い傷跡を残していますが、それを「ターニングポイント」と前向きに捉え、自然と向き合う農業を目指されています。そこに日本のこれからの農業の新しいエネルギーを強く感じました。

お茶をもっとおいしく味わえる、人気のワークショップです!

お茶の淹れ方
ワークショップ開催決定!

日時:7月24日(火)10:00~12:00
好評の内に終了しました。

向島和詞(むこうじまかずと)●1985年生まれ。有機栽培に取り組んだ先代の故向島園主・向島和光氏亡きあと18歳という若さで園主を引き継ぐ。現在、社名を「葉っぴい向島園株式会社」に変え、代表取締役兼園主として全国最年少の青年農業士に認定される。自然界の生命の輪を意識した完全有機農業に取り組みながら、各種有機認定を取得。農商工連携にも取り組み、低迷する茶業界の中で奮闘する新進気鋭の青年農業士。
2008年:JAS有機認定取得
2009年:NOP米国家有機計画認証
ECOCERTエコサート認証
2010年:青年農業士に認定
「葉っぴい向島園 HP」<http://www.mukoujimaen.jp/>
「究極の園主」<http://mukoujimaenblog.blogspot.jp/>

風評被害にも打ち勝つ魅力ある農業に

中西 昨年は、お茶の一番大事な時期に原発事故がありました。今年は、検出結果も良好だということで向島園さんのファンである私はすごく嬉しいのですが、茶業全体はどうなのでしょう?

向島 除染作業として、すべての葉を深く刈り込むというのをしています。お茶の木は葉の部分に栄養素などを蓄えておくので、そこを取り払えばお茶が吸収した放射能も除去されます。茶業全体でその除染作業をしたので、放射能測定値は震災前と何も変わらない状態に戻りました。ただ風評被害が根強いですから、状況は過去最悪かもしれません。

中西 放射能が検出されなくても不買状況がずっと続いているわけですね。

向島 ただ農業全体に言えることもありませんが、風評被害を吹き飛ばすほどの魅力ある商品を作れないという先代からお付き合いがありますが、ますます発展されてきたその矢先の原発事故で心配していました。でもそれを前向きに捉えていることがわかって大変うれしいです。

向島 僕自身、今回の放射能問題がターニングポイントになりました。これからの時代は本物しか必要ないということを強く思うようになりました。具体的には、もっと時間をかけて自然と対話しながら農業をするということですね。生産面積を縮小してでも自分ですべての畑を見回りたいですね。そうでないと、逆に自分のストレスになるのがわかったのです。

震災前はオーガニックに対する世間の注目などから売上が伸びていたのでそれに応えたい気持ちがあったり、また、父の無農薬のお茶に対する情熱が売上につながらない苦しみを知っていたので、周囲に「父がしていたことは間違っていないんだ」ということをアピールしたい…という気持ちがありました。それらの思いから生産面積を増

うことが浮き彫りになったのだと思います。いままでの農業は僕から見ると「農業」ではなく「工業」なんです。化学肥料を撒くことは否定しませんが、ちゃんと木の状況を見て必要であれば使えないと思います。ただ決まった時期に指導のもと、化学肥料を撒くという想いのこもっていない作業から生まれる作物は、工業生産品と変わらないですよ。本当の農業というのは、自然と会話しながらやっていくものだと思います。そういうバックグラウンドがない商品は魅力もないし、風評被害にも弱いんですね。あとは価格競争がありませんから。

中西 風評被害だけでなく、これからTPPなどで外国から安い商品が入ってきたら、農家にとっては死活問題になります。このことは日本の農業全体に言えることですよ。

向島 そうです。TPPもただ反対するだけでなく、外国の安い商品が出回っても、国内の消費者が買い支えてくれるような魅力ある農産物を

やし、売上を伸ばしてしました。だけどどうもその気持ちに葛藤があって、やっていることは無農薬栽培で変わらないうのですが心がときめかなくなりました。その矢先の原発事故で、そのこと自体はいいことではないのですが、この一件で自分の中の雑念のよなものが落ちていって実にシンプルになったのです。要するに、自分は経営者ではなく農家でありたいという気持ちです。だから本当に自分の手の届く範囲で、畑と対話しながらやりたいと、改めて思いました。

中西 それは素晴らしい。結果として、本当の意味で消費者との信頼関係が深まることになりそうですね。

向島 それしか自分の目指す農業は実現しないと思うようになりました。ただ美味しいだけじゃない、「生命の味わいがする深い一杯」という父が目指していたお茶作りの真髓に真剣に向き合っていくしかないのです。昔の人は「畑は人の足音で育つ」と言っていたようです。バタバタと心こ

畑と心を通わして…

中西 確かに今の時代、ただ作っていいばいとしている農業はどんどん淘汰されてしまっていますね。逆に、独自の理念で深く農業に携わっているところは拡大しています。そういう意味で農業も二極化しているのを感じますね。

畑がグれる?

中西 私は向島園さんと

向島園のワークショップ

ワークショップは5人程度から開催できます。ご相談ください。
ご連絡は代表まで。TEL054-639-0514



カットした茶葉を焙じています。いい香り



まずは、お茶のうんちくをお話します。



オリジナルほうじ茶の完成です。美味しそう…



はじめに、包丁でお茶をカットします。

「自分でお茶を仕上げよう」
今回はオリジナルのほうじ茶をつくりました。

毎年、茶摘みツアーも開催しています

ホームページのギャラリーで
お茶摘みツアーの様子を公開しています。



向島園の生命力あふれる茶樹



■ 向島園の茶樹(一本仕立)

ずっしりと成長し、幹がしっかりと出来上がった茶樹は人の腕より太いんです。幹を切ると年輪が見え、根は400~800cmほど地下に伸びるため、生命力が強いです。



■ 一般的な茶樹

密植され幹になりきれず盆栽化した茶樹は、枝を切っても年輪が見えません。根は50~100cmしか地下に伸びないため、生命力が弱いです。

新しい時代を創るステキな仲間たち

ここにあらずで仕事しているところ、グレルんですよ、畑が…。
中西 えー？ 畑がグレル？

向島 本場に雰囲気全然変わるんですよ。

中西 畑がグレルという話は面白いですね。自然全体に意識があるからそういうことはあると思いますが、それを感じ取れる関係になれるとすすごいことですね。

向島 自然と向き合い共存することで、自分自身も楽しく農業ができると思うのです。実際、肥料や栽培方法など技術的にはいろいろありますが、何より一番の肥料は畑に顔を見せることなんですよ。特にこれからは科学とは違う心の農業が大事になると思います。つまり人間の頭で考えるよりも、自然に教えてもらいながらやるということなんです。すでに世界的に異常気象が起きていますが、そうやってくと今までの科学の常識では太刀打ちできません。有機農法にしろ非有機農法にしろ、理論は違っても科学的データに基づいて作り上げ

みんながハッピーになれる「葉っぱイロ」島園に

中西 今回、すごい新商品が出ると思ったのですが。

向島 古代品種で作っている「縄文のお茶」と、発酵させて作る「SAKURA」です。どちらもおかげさまで評判がよいです。

お茶はもともと種の状態です。日本にやってきました。自家受粉しないため、その木と同じ品種のものを作るには挿し木で増やすしかありませんが、挿し木はクローンです。クローンだとしても生体が弱くなって…。でも日本のほとんどのお茶は東北品種で、これはクローンで増えたものです。そこで日本古来の在来品種で作ってみたのが「縄文のお茶」です。

中西 名前にインパクトが

ありますね。名前の由来は何ですか？

向島 うちの茶畑から縄文式土器がいくつか発見されて博物館に展示されているんですね。縄文中期、約4000年前の祭祀具(地面につき立て繁栄を願ったと考えられる)のようです。もともと

その場所は地元ではパワースポットだったようです。それで、その土地に眠る太古のパワーにあやかって日本の在来種の強さ、たくましさを表した「縄文のお茶」という名前になりました。加工の仕方もあえて昔ながらの浅蒸しで製造しています。

中西 へえ！ 縄文土器が発見されるなんてすごいね。「SAKURA」という名前も素敵ですね。

向島 父がこのお茶の味に魅了され、頼み込んで譲り受けた品種です。加工の段階で少し発酵させることにより桜餅のような香りがします。まったくの無添加で香りを出しています。

このお茶は、すべて父が自分で完成させた一本仕立てと

いう強い茶木できています。人間も窮屈な状態だとストレスを感じますが、木も同じで間隔を空けてのびのびとさせてあげることにより自ら害虫の影響を受けない強い生命力を持った木になります。

中西 お茶本来の味わいの効能もすごいのでしょうか？

向島 お茶はもともと薬として扱われていただけに効能は数多くありますが、薬用のほかに、私はお茶が作る「場」の力を感じます。例えば食事や会議で出されるお茶はその場を和ませますね。お茶によって最初のコミュニケーションが生まれます。そういう「場」の雰囲気や好転させる力に魅力を感じます。また、日本では戦に赴く武将が生死ギリギリの精神状態を安定させるために一服立てたとか、スピリチュアルな要素もあります。

ところが最近、急須がない家がけっこうあって、お茶はペットボトルで飲むものだと思っている子どもが増えているようです。生産者として心を込めてお茶を作ります

が、最終的にそれを美味しく味わっていただくのはお茶を淹れるお客さん自身です。それでもっとお茶を身近に楽しんでもらおうと、お茶を楽しむワークショップを開催させていたいです。

中西 それは面白そうですね！ぜひ参加してみたいです。具体的にどんな内容なのですか？

向島 お茶の淹れ方や美味しく淹れるための理論的な説明、それから実際に自分でほうじ茶を炒って作ってみたりいただきます。作る方にも味わっていただく方にもお茶を通して何かしらのハッピーを感じてもらいたいです。私自身、自然と溶け込み、農業を通して生命を持った生き物としての自分を生きていくと感じたときに、すごく幸せに感じるからです。

中西 素敵なお茶だと思えます。二代目の向島園主をますます応援していきたいと思えます。

今日は忙しい中ありがとうございました。(合掌)

NPO法人 JOYヒーリングの会 JOYヒーリングとは…？ 病気を「治す」にはその本体にある「想い」に気づく事が大切ですが、それはあくまでも本人次第。私は皆さんをその「気づき」へと導くナビゲーターに過ぎないのです。他に適当な言い方がないので仕方なく「ヒーリング」と呼んでいます。別に難しいことをするわけでも、魔法のようなスゴイ術を使うわけでもありません。ただ、「愛の波動」を送るだけ、たったそれだけの事なのです。(中西研二著「そのまんまでオッケー！」より)

向島園のご紹介

園主 向島和詞 むこうじまかずと



五月 お茶摘みの様子(当園裏山にて撮影)

私は今、完全有機栽培(無農薬・無化学肥料)で、お茶の栽培・製造・販売をさせて頂いております。

現在の農業界では、化学肥料、農薬使用による栽培方法が大部分を占めております。

では、何故、無農薬・無化学肥料という栽培方法を取っているのでしょうか。

一人の人間が生きるには、どれだけの物が介在しているのでしょうか？まず生きてゆくには食べ物が必要で、そして衣類・住宅等…。ただ一人の人間が生きてゆくだけでとても沢山の物との関わりを持たなければなりません。ではその物の存在、維持というものはどのように行われているのでしょうか。

今、この地球上にはとても多くの生物(植物・動物・人間も含む)が生存しています。

そんな中、たとえば、植物・動物の関係。植物は動物の呼吸により出された二酸化炭素を吸収して生命を維持しております。又、動物は植物の出した酸素により呼吸し、生きております。現実的には、地上にあるものすべて二つが自然の仕組みの中では掛け替えのない役割を担っているのではないのでしょうか。確かに農薬・化学肥料はある

面から見ればとても妥当な方法だと思われれます。しかし、生命の次元で観た場合には大きな輪としてつながっているそれぞれの命の流れを途中で絶ち切る事になるのです。

そしてそれがどのような結果を生み出すのでしょうか？

人間は自分の体の調子が悪くなれば、自分で悪い条件を取り除き、健康な体に戻そうと努力します。でも、地球上でそのような事ができるのは人間だけなのです。

山の木々が健康を害するような環境になってきたから、もつと条件の良い場所に移ろうと思っても、決して出来る訳ではありません。人間以外の生物の生存は、ある意味で総て人間に委ねられているのです。同じ地球を構成する生きものなのに、「何をしてもかまわない」

正しさの基準を人間中心に定めて良いものなのでしょうか？



忘れていた生命の一体感

ある本に、次のような話が載っていました。

『わたしは沖縄の先島さきしまと呼ばれる離島で、しばらく生活していて島の人たちが持っている自然観ぜんくわんというものを学びました。これは、もしかしたら、今日の社会のひずみを正すカギになるのではないかと思える自然観です。それはひと言でいうと、生命の一体感ということ。』

生命というのはバラバラに成立しているものではなくて一体のものとしてあるのだという考え方です。

ある時、わたしはフィリピンの、ミンドロ島付近に散在している島へ行きました。文明といえば、携帯ラジオがあるくらいで、むろん電気もないところ。わたしたちが行くとき、日本人はエビやカニが好きだということを知っていて、海に潜ってイシガニいしがにというのをとってきてくれた。それから、ボイルするために台所へ行ったのですが、すぐに帰ってきて「たいへん申しわけないが、今晚はカニをこちそうできない。このカニは、今抱卵くわんらんしているので海に帰してやる」と言う。

それを聞いたとき、わたしたちはまともに顔を上げることができな

かった。わたしたちは、こういう人たちが暮らす海に、近代的な装備の船団を送り込んで、魚やカニをねこそぎとってしまう。わたし自身が漁をするわけではないが、日本人の一人として平気でエビやカニを食べている。そう思うと、恥ずかしくてとても顔を上げられなかったのです。

同時に教育にかかわってきた人間の一人として、いったい教育とはなんだろうと思わず考え込んでしまった。日本人といえば世界でも一二を争うほどの教育を受けてきた民族だろうと思う。一方、イシガニを海へ帰してやった人は、おそらくわたしたちがいうところの義務教育すら受けていないと思われる人たちです。ところがその彼らは、生命はかけがえのないものだということわめてあたりまえの思想のなかで生きています。生命の一体感ということを非常にたいせつにしている。

一方、文明の恩恵を受け、教育も十分にいき届いているはずのわたしたちのなかには、そうした考えがまったくといっていいほどない。わたしは、非常に暗い気持ちになりました。』

(家の光1998年12月号より)

視点をずらして観ることで、今まで観えなかったものが観えてくる。

本当に大切だったものはなんだったのでしょうか？

今、私達に求められているものは、命の次元で物事を観てゆくことなのではないでしょうか。そして、生あるもの総ては、単独で生存出来ているのでは無く、みな一つの輪としてつながっていることを思いだし、今まで、私達人間が断ち切ってきた輪を、元の状態に戻すことが、なによりも大切なことではないのでしょうか？

昭和57年より無農薬・無化学肥料による完全有機栽培に取り組んできました。

最初の頃は農薬や化学肥料の影響で、茶木の生命力も弱く、ほとんど収穫することが、出来ませんでした。

やっと以前の収穫量に戻ったのは六年目でした。その喜びは今でも覚えています。

お茶の葉の一枚一枚の力を十分引き出し、皆様にお茶を通して自然からのメッセージをお届けできたらと願っています。

尚、大切に収穫したお茶は裏山から湧き出る清水で蒸し、心をこめて仕上げ、お届けさせて頂いております。

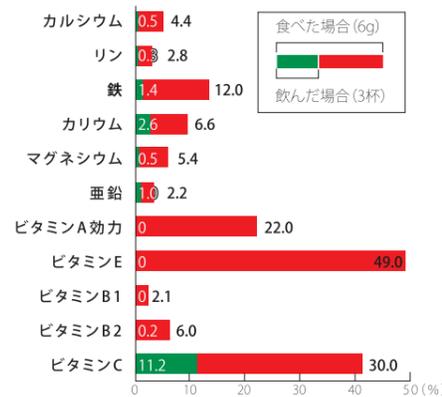
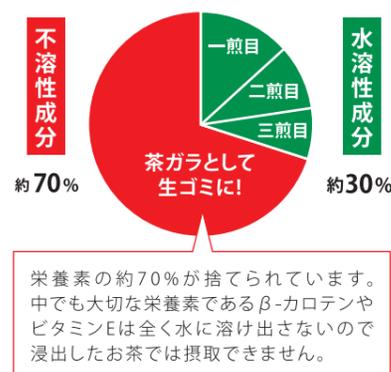


お茶の成分と粉末のパワー



私たちがいつも飲んでいる緑茶に含まれる主な有効成分は、「カテキン・テアニン・カフェイン・ビタミンC」などです。健康維持に役立つこれらの成分は、高血圧や糖尿病などの生活習慣病や、ガン予防、また抗菌・殺菌作用の効果があることが、最近の研究で明らかになってきました。

しかし、お茶の栄養には不溶性（水に溶けない）のものが多く、急須で淹れた場合、約7割の栄養が茶殻に残ってしまいます。茶殻の中には、「カルシウム・鉄分・ビタミンE・β-カロテン・ミネラル分」など、日常の食事ではなかなかバランスよく摂取しにくい微量栄養素が多く含まれています。



元々お茶は、薬として日本に入ってきました。昔は、金と換えるほどの価値ある葉っぱだったのです。その価値は、このような素晴らしい栄養にあったのではないのでしょうか。粉末緑茶なら、そのまま溶かして飲むだけで、まるごとお茶の栄養を100%摂取することができます。玄米粉末茶なら、絶妙なバランスでブレンドしたお米とお茶の栄養をいただけます!

また、当園のお茶は、農薬や化学肥料を一切使用せず、**お茶も特別な栽培方法(植物にストレスをかけない方法)**で育てているため、従来のお茶に比べ、デトックスや活性酸素除去効果があるといわれるSODがなんと約**4倍以上**もあり、花粉症に効果があるといわれるカテキン類も、約**13倍**も入っています。

おいしくて安心安全で体に良いお茶を楽しく飲んでいただきたいと思います。昔から「養生の仙薬」と言われるお茶のパワー! 是非、お試しください。



世界一安心なお茶を目指して!

飽食の時代になり、食べ物に困らなくなって初めて「**食の安全**」を社会が意識するようになりました。ところで、「**有機栽培**」って聞くと なんだか安心しませんか? 有機JASマークが付いていると、安心して買っていませんか? 有機栽培=無農薬だと思っている方が多いようです。有機JASマークのついた食品は、規制がありますが、使用してよい登録農薬もあり**無農薬ではありません**。その中には、遺伝子組み換えの肥料も使用許可された物があり、消費者の認識とは少しずれがあるようです。当園では、自然・地球と人間など様々な絆の結び直し架け橋を目指して、法律の枠を超え、安心安全なお茶作りに取り組んでおります。毎年、全ロット残留農薬検査・放射能測定検査を行い、確かな安全を確認しています。



お茶の残留農薬検査の結果、分析項目全403項目は、全て不検出となりました。



お茶の放射能測定検査の結果、セシウム-134・セシウム-137は、全て不検出となりました。

平成24年度に収穫された茶葉を検査した結果「残留農薬」及び「放射性物質」ともに不検出となりました。

 当園のお茶は、信頼性の高い有機認証を取得しています。



有機JAS認定農園

[2008年6月認定]

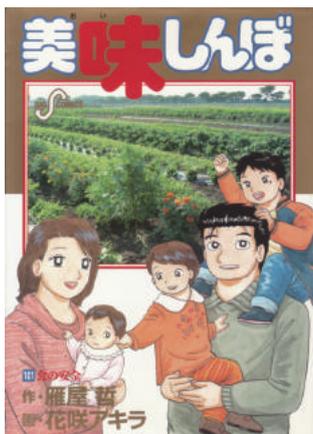
有機JAS認証[日本]

農林水産省が定める有機JAS規格に基づいて生産・加工された食品に与えられる認証です。

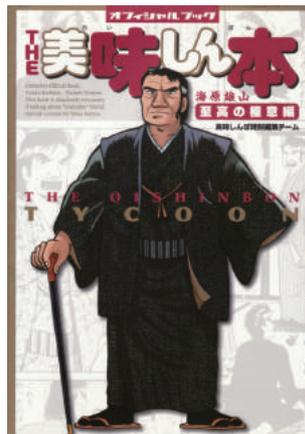


 残留農薬分析を400項目以上について実施。
安心してお召し上がりいただけるお茶をお届けしています。

 食をテーマとした人気作品“美味しんぼ”に掲載されました。



小学館発行
「美味しんぼ 101巻(食の安全)」
に掲載されました。



遊幻舎発行
「THE 美味しん本 オフィシャルブック
海原雄山至高の極意編」
に掲載されました。



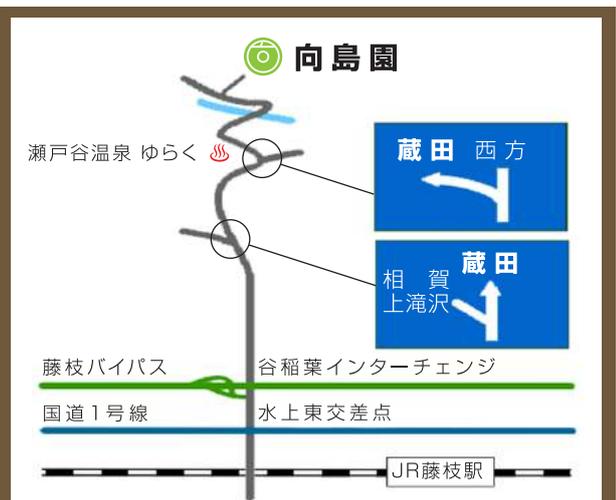
小学館発行
「美味しんぼ 心を壊す！
考えよう食の安全編」
に掲載されました。

会社名 農業生産法人 葉っパイ向島園株式会社
代表者 園主 向島和詞(むこうじま かずと)
所在地 〒426-0131 静岡県藤枝市瀬戸ノ谷5077番地
営業時間 8:00~18:00
休業日 年中無休(不定期 ホームページで予定を公開します)
電話番号 054-639-0514
FAX番号 054-639-0574
ホームページ <http://www.mukoujimaen.jp/>
Eメール info@mukoujimaen.jp



向島園 で 検索 

スタッフブログも更新中!



留守の場合がありますのでご来園の際はご連絡下さい